

期 日 平成18年11月16日（木）・17日（金）

開催地 熊本市

会 場 熊本テルサ

## 内 容

16日 10:30～12:00

講義Ⅰ 「学校における喫煙、飲酒、薬物乱用防止に関する指導」

講師 健康教室企画室健康教育調査官 鬼塚英明

1. 未成年における喫煙、飲酒、薬物乱用の現状と問題点
2. 喫煙、飲酒、薬物乱用に関する教育の必要性
3. 対策

13:00～14:15

講義Ⅱ 「水問題を正しく認識する」

講師 熊本県立大学環境共生学部 教授 篠原亮太

1. 水の形態と役割
2. 日本の水は十分にあるのか？
3. 上水の造られるプロセス
4. 発ガン性の危険性が疑われているトリハロメタンは、上水製造過程のどこでできるのか？
5. トリハロメタンは、発ガン性が疑われているが、その危険度は？
6. 生活排水の行方は？
7. 下水処理場、合併浄化槽、単独浄化槽の違いはどこにあるのか？
8. 「台所の流しは、海の入り口」は、本当なのか？
9. 下水処理や合併浄化槽で、赤潮問題は解決できるか？
10. 循環型社会に貢献するコンポストの問題
11. 水の価値は、どのくらい？
12. 熊本の地下水はどこからくるのか？
13. 節水の難しさ
14. 水は、人類共同の財産

14:30～16:00

特別講演 「小・中・高校生に伝えたい薬の常識」

講師 北里大学薬学部 教授 望月真弓

1. くすりの定義
2. 医療用医薬品と一般医薬品
3. くすり与健康食品・サプリメントの違い

4. くすりができるまで
5. くすりの効果と副作用
6. くすりの正しい使い方
7. おわりに

17日 9:30~12:30 研究協議

「第1分科会」飲料水・プール部会

1 学校プールのよりよい管理を目指して ～学校薬剤師との連携を通して～

発表者 岩手県盛岡市立手代森小学校 養護教諭 宮 容子

・学校プール管理について学校保健安全計画の環境管理に位置づけ、取り組んでいる。

・6月上旬

プール委員会（学薬来校）

衛生、安全な水泳 プールの維持管理 組織的な運営計画

学薬—プール管理研修 VTR 保健便り（衛生、感染症、プールでの約束）

・6月中旬 プール事前清掃

定期検査—プール施設・設備の検査（学薬来校）

水上安全法講習会（保護者・教職員対象）

水泳学習について保健便りを発刊

・6月下旬

構内プール管理講習会（逆洗の方法）

・7月中旬

学校保健会（学薬来校）

定期検査—第1回プール水質検査（学薬来校）

・7月下旬

校内プール管理講習会（夏休みのプール管理について）

・8月下旬

定期検査—第2回プール水質検査（学薬来校）

成果

1. 教職員の役割分担を明らかにし、学薬の指導の下で、組織活動によりプール管理を円滑に推進できた。
2. 学薬との連携を図り、プール管理研修や活動を行うことにより、教職員の理解が深まり、意欲も向上。
3. プール委員会や学校保健委員会等の内容を「ほけんだより」や「学校保健委員会だより」等で情報発信することにより、学薬、学校、家庭の連携が図られ、児童、保護者の意識が向上。
4. 教育委員会、学校薬剤師会、学校が連携を図ることにより、共通理解が得られた。

## II プールサイドで使う業務日誌 ～水泳プールの適正管理をめざして～

発表者 社団法人熊本市薬剤師会 理事 赤星顕正

学校環境衛生の基準に基づいた「プールサイドで使う業務日誌」を作成。  
配布時には、この日誌の使用を強制するものではなく、業務日誌を付ける  
本来の目的が、「水泳プールの適正使用」であることに注意。

シーズン前の調査に於いては判定基準を明確にすることが重要である。  
調査票の回収率を上げることが適正管理に直結している。  
教育委員会との連携を今以上に深め、業務日誌を継続して提供し「プール  
水の不適ゼロ」をめざす。